

3月10日(土) 10:30～12:30  
於：郡山ビューホテルアネックス  
雲水峰の間

## 双葉地方町村、福島県と国との意見交換会

### 議事次第

#### 議事

1. 開会あいさつ
  - (1) 平野大臣
  - (2) 細野大臣
  - (3) 福島県知事
  - (4) 双葉地方町村会長(以上頭撮りあり)
2. 現状説明
  - (1) 帰還支援に関する国の取組の現状
    - ①復興庁説明
    - ②環境省説明
  - (2) 双葉地方町村会説明
3. 意見交換
4. 閉会

出席者

国 : 平野復興大臣

細野環境大臣

松下復興副大臣

柳澤内閣府原子力被災者生活支援手一ム事務局長  
(原子力災害現地対策本部長)

吉田復興大臣政務官 (福島復興局担当)

高山環境大臣政務官

双葉郡町村 : 井戸川双葉町長

山田広野町長

草野檜葉町長

遠藤富岡町長

遠藤川内村長

渡辺大熊町長

馬場浪江町長

松本葛尾村長

福 島 県 : 佐藤知事

【事務方出席者】

国 : (復興庁)

岡本 統括官

伊藤 審議官

鉢村 審議官

諸橋 福島復興局長

(内閣府原子力被災者生活支援子一ム)

菅原 事務局長補佐

富田 審議官 (原子力災害現地対策本部)

(環境省)

鷺坂 水・大気環境局長

関 水・大気環境局 水環境担当審議官

森谷 福島環境再生事務所長代行

(文部科学省)

戸谷 研究開発局長

渡辺 科学技術・学術政策局次長

双葉郡町村 : (檜葉町)

猪狩 企画課長

(富岡町)

緑川 生活環境課長

(川内村)

井出 総務課長

(双葉町)

平岩 企画課係長

(浪江町)

玉川 企画調整課主幹

(葛尾村)

金谷 参事兼総務課長

(双葉地方町村会事務局)

吉田 常務理事

松本 事務局長

福島県 : 荒竹 生活環境部長  
齋藤 市町村復興支援担当理事  
八木 企画調整部理事兼政策監

## 配付資料

### [国側配布資料]

資料1 避難者の帰還に向けた主要課題と検討体制

資料2 避難指示区域に関するインフラの状況

資料3 モニタリングについて取組方針

資料4 除染等について

資料5 浜通り地区における研究開発・産業創造拠点の候補

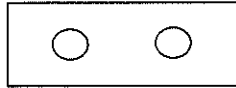
### [双葉地方町村会提出資料]

資料 双葉地方としての主な課題（双葉町村会）

# 意見交換会 座席表



阿久津 吉野 清水  
班長 課長 係長



(福



島



県)



猪狩 緑川 井出  
課長 課長 課長



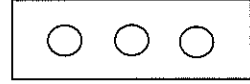
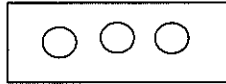
平岩 玉川 金谷  
係長 主幹 課長



吉田 松本 木幡  
理事 局長 主査



荒竹 斎藤 八木  
部長 理事 理事



葛尾 松本  
村長

大熊 渡辺  
町長

富岡 遠藤  
町長

山田 広野  
町長

佐藤 福島  
県知事

井戸 双葉  
川町長

草野 檜葉  
町長

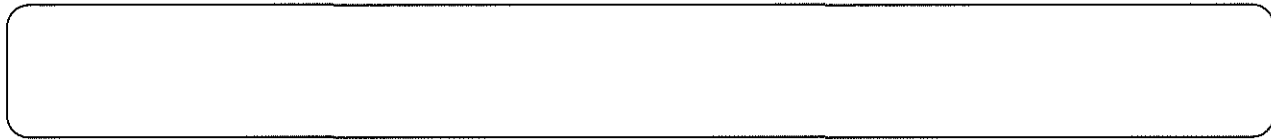
川内 遠藤  
村長

浪江 馬場  
町長



事務方

自治体側



吉田 復興大臣  
政務官

松下 復興副大臣

平野 復興大臣

細野 環境大臣

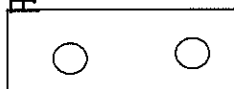
柳澤 内閣府原子力被災者  
生活支援子一ム事務局長

高山 環境大臣  
政務官

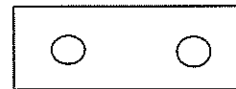
国側



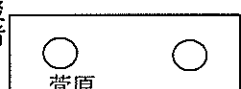
渡辺 戸谷  
次長 局長  
(文部科学省)



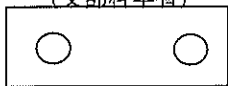
伊藤 岡本  
審議官 統括官  
(復興庁)



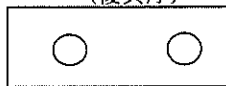
鷺坂 関  
局長 審議官  
(環境省)



菅原 富田  
事務局 審議官  
長補佐 (内閣府)



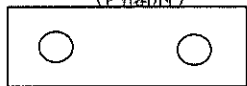
田口 由良  
次長 参事官  
(文部科学省)



鉢村 諸橋  
審議官 局長  
(福島復興局)



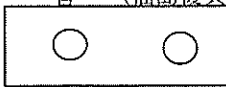
尾澤 森谷  
参事官 所長  
代行



大村 松永  
課長 参事官



福井  
参事官



木村 浜辺  
参事官 次長



藤塚 坂川  
室長 課長



(OFC) 須藤  
参事官

事務方

(入 口)

## 双葉地方町村、福島県と国との意見交換会 概要（未定稿）

日時：平成24年3月10日（土）10：27～12：43

場所：郡山ビューホテルアネックス 雲水峰の間

出席者

### ○双葉郡町村

井戸川双葉町長、山田広野町長、草野檜葉町長、遠藤富岡町長  
遠藤川内町長、渡辺大熊町長、馬場浪江町長、松本葛尾村長

### ○福島県

佐藤福島県知事

### ○国

平野復興担当大臣、細野環境大臣、松下復興副大臣、  
柳澤経済産業副大臣、吉田復興大臣政務官、高山環境大臣政務官

## <1. 冒頭挨拶>

### 【平野復興大臣】

今日の会議は私どもの方からお願いをさせていただきましたところ、佐藤知事を始め、関係町村の首長さんに御出席頂いたこと、御礼申し上げます。

この1年間、本当に我々も皆様方も、全力で、まずは被災者の方々の支援、それから復旧・復興に向けての様々な計画作り等々、本当に連日忙しい日々を送ってきたわけですが、改めて皆様方の1年間の御努力に敬意をお伝えしたい。

そして、1周年を皮切りに、本格的な福島の再生に向けて、私どもも全力をあげて取り組む所存であり、昨年12月の冷温停止という状況を受け、警戒区域等々の見直しを行うわけですが、帰還という、大きな仕事にも取りかからなければなりません。

それに向け、政府の中では除染・賠償・インフラ等々、6つのテーマを設け、政府内で様々な観点から今検討を進めており、今日はその検討の状況について、インフラ、モニタリング等々についての状況を、御説明をさせていただきます。

細野環境大臣から除染、中間貯蔵施設等々の話があるかもしれないが、意見交換会ということになっており、中間貯蔵施設等については、こういう形で協議する場ではないので、「お願い」という形での話になると思います。皆

【機密性2情報】

様方の、様々な御意見等々もあるかと思うので、是非忌憚のない活発な御意見を出して頂ければと思います。

以上を申し上げまして、冒頭の私の御礼のご挨拶、お願いの御挨拶に代えさせて頂きたいと思います。

また、福島再生特別措置法については、おかげさまで、一昨日、衆議院を通過し、できるだけ早く参議院で審議頂き、一日も早い成立を目指したいと思います。

【細野環境大臣】

本日は、佐藤知事、そして双葉郡の8町村の町村長の皆さんに、本当にお忙しい中、貴重な機会を頂いたことに心より感謝申し上げます。まもなく1年が経とうとしているわけでありますが、依然として皆さんに多大な御迷惑と、そして御不自由をおかけしていることに関して、この場を借り、改めてお詫びを申し上げたいと思います。

今日は、これは私の個人的な思いですが、双葉郡の皆さん、そして福島県知事を含めた県の皆様と、もう一度信頼関係を構築する、スタートにしたい。

これまでの政府の対応については、反省するところばかりで、皆様に色々な意味で不信感を持たれ、国が本当に復興にどれくらい本腰を入れてるのかについて疑念を持たれたり、そのような事が多かったと思います。私どもとしては全力でやってきたところですが、反省をしなければならないことが多かったと思います。

これからの双葉郡のことを考えると、皆様と私どもが、本当に膝を突き合わせ、色々な問題を考え、乗り越えていけない課題が沢山あると思います。今日、これまでの御迷惑をお詫びさせて頂き、それらを乗り越え、これからも一緒に、双葉郡の将来、福島県の浜通り在り方に展望を見いだせるような環境を作っていきたいと思いますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

私から、除染の進め方について、そして、この地域の災害廃棄物の処理、中間貯蔵の施設につきまして、今日は皆様をお願いをさせて頂きたいと思います。

また、研究開発拠点を、今後福島県、特に浜通りの方にできる限り持って行きたいという思いを持っており、まだ生煮えですが、現段階で考えている事についても、皆様に御報告させて頂きたいと思っております。

今日は、あくまで私どもの方からの、「初めてのお願い」ですので、皆様から、非常に多くの、おそらく様々な思いがあると思いますので、それをしっかり受け止めさせて頂いて帰りたいと思います。御協力頂きますように心よりお願い申し上げます。



【佐藤福島県知事】

今日は関係閣僚の皆様、お忙しいところ福島県に来ていただきありがとうございます。また 8 町村の皆様は、お忙しい中、顔を出していただきありがとうございます。また私もお呼び掛けいただき、ありがとうございます。

明日で 1 年になりますが、振り返ってみて、本当に長い 1 年であり、何十年も過ぎたのではないかなというくらい、毎日、原発事故の新たな事象や局面を迎えて、双葉 8 町村又は関係されている市町村の皆さんも大変御苦労されている。そして、避難されている方がどんな苦労をして、どんな思いして正月を迎え、今日に至り、「何が改善してどこが復興したのか」、ほとんどの方がそう思っていると思う。

一昨日、福島第一原子力発電所に行きましたが、本当にすさまじい情景でした。原発の水素爆発の威力に騒然としましたし、最初の爆発の時と今日とでは変わってはいますが、光景そのものはほとんど変わっていないところを見ると、本当に一日も早く世界の英知を結集して、進んでいるなというところを見せていただきたいと思う。

今日まで政府の方々が御尽力している姿はしっかり見ていますが、地元からすると、情報の管理が必ずしもうまくいかず、信頼を欠くこともあり、色々なこと・事象が起きる度に県とか町村で対応できないものがあると、国にお願いし、国からの返事を待っているということがあり、残念ながら縦割り行政での対応でしたが、今度復興庁ができ、これはまさに一元化でしっかりやっていただき、査定官庁と言われぬように、霞が関の中で圧倒的にリードしていただきたい。これは私だけでなく市町村長の思いであり、県全体の思いである。そして総理大臣が一番の責任者であることから、ともかくこの原発の収束が国家のまず第一義だという気持ちを持っていただいてやっていただきたい。

福島再生特別措置法が皆様方の努力により、順調に国会審議が進み、修正の流れの中で 18 歳未満の医療費の話もある形で、進めていただいたことは感謝申し上げます。

今日、地元の市町村、国、そして私どもも参加させていただき、それぞれの意見を交換することは極めて意義のあることだと思います。この地元の気持ち、被災地の気持ちを改めて感じていただき、両閣僚、副大臣はもちろん政府で、国会で、さらには日本で、世界で共有していただき、1 日も早い再生復興が実現すること、今日はある意味では本当に新たなスタートであるという気持ちで臨みたいと思うので、皆様方にも忌憚なくそれぞれ御意見いただき、一日も早い復旧復興を進めていただければと思います。本日は誠にありがとうございます。

【井戸川双葉町長】

両大臣ほか政務の皆様、本日はお出でいただき、また私どもこの席に招いていただきありがとうございます。

先月 26 日については、私も至らないところがございましたので、この場をお借りして謝りたいと思います。

今、両大臣並びに知事から双葉郡の問題の多さ、そして長い時間が掛かるようなことも踏まえ、日本あるいは世界の問題であるというふうにおっしゃっていただきました。私もそう思っています。今月 7 日に第一原発に入り、必死になって事故の終息に向けて働いている皆様に対して御礼、感謝を申し上げてきました。本当に命を懸け、大事に至ったとしても現在のように止めてくれたということについては、本当にうれしく思いました。その中に久しぶりに、1 年ぶりに会う双葉町民の顔がありました。そして、多くの作業場にいる方々も双葉郡民であり福島県民ですので、くれぐれも体に気をつけて、事故のないように、そして確実に仕事をしていただきたいという願いをしてきました。これ以上事故が広がらないこと、これはあってはならないので心から願っています。それには彼らの働き以外には達成できず、日頃から感謝していますけれども特段の感謝を申し上げます。そして現場はまだまだ収束というには遠い感じがし、これからの作業の多さを考えると、我々も安穩としていられないな、という感じであります。

双葉町が安全神話の中で原子力発電所と共生をしてきたわけですが、残念ながらこのたびの事故で郡民並びに浜通りの住民が避難をしなければならない状況に至っています。避難するときは必死で、命懸けで避難をしたわけです。避難をし、落ち着くことがいつになるかわからない中でこの 1 年を迎えようとしています。住民は大分顔が小さくなり、後ろ姿が本当に痛々しい姿で、生活の安定が第一と思います。除染も大事であります。我々にとって住民対応が日を迫って大きな問題になっており、子供達の教育の環境も本当にまともでない中、必死になって子供達が耐えており、これも早急に解決しなければならない問題です。

また復興には、我々の地域の環境改善を行い、除染も確実にやっていただかなければならない。細野大臣には大きな荷物ですが、ここは双葉地方の命運が懸っているので、しっかりとお願いしたい。ただ、福島第一原子力発電所の環境を見ると、安心して双葉地方が今後戻れるのかという疑問もあります。

それらを踏まえて議論をさせていただきたいと思います。後ほど双葉郡としてまとめた要望も述べさせていただきますが、これを機会にしっかりと私どもの意見を述べさせていただくので、ぜひ国の方でも前向きに対応をお願い

いしたいと思います。

また、今日は本当にお忙しいところ県知事も同席いただきました。我々と県とそして国の関係がしっかりとしたものであり、世界に「双葉地方が立派によみがえった」という素晴らしい歴史を残したいものと考えております。どうぞよろしく申し上げます。

(ここでプレス退出。以下、非公開部分)

